

## 学校評価について

「学校評価」は、幼児教育の質の保証とその向上の手段として行うもので、そのうち「自己評価」は文科省によって義務化されています。井草幼稚園は義務化された2007年以来、毎年、2学期の終わりに職員によって「自己評価」を行ってきましたが、令和4年度より、「学校関係者評価」（当園の場合は評議員による）を加え、公表いたします。

手順は、職員一人一人がチェック表をもとに個人評価をしたものに基づいて、園長以下、一同で重点目標や計画に照らし合わせながら、その取り組みや達成状況について話し合い、園の自己評価を行います。次に、評議員会の協力を得て、自己評価の結果等について評価し、付け加えるべき検討課題を協議し、その内容を取りまとめ、報告書（下記掲載の通り）を作成するものです。

\*\*\*\*\*

## 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月31日

（学）松峯学園 井草幼稚園

### 1. 本園の教育目標

\*幼児ひとりひとりの性格を的確に把握し、＜明るく 正しく 仲よく＞を信条に、家庭的な雰囲気の中で心と身体の調和のある発達を期する。

\*幼児の身体、心情、意欲、態度の発達に関わる「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の領域を、自由遊び・一齐活動・生活・四季折々の行事に織り込んで、たのしい保育を行なう。

\*幼稚園での集団生活を通して、はじめある基本的な生活習慣・態度と道徳、社会生活の規則を習得する。

\*童話の語りや読み聞かせ、童謡など、世代や国境を超えて大切にしたい児童の文化を継承してゆくことも幼稚園の重大な使命と考え、教育に当たる。

### 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

\*共同絵画（模写）制作を通して、各自の持ち分を仕上げていくと共に、他人と協力してひとつのものを上げる楽しさと達成感を味わう。また対象絵画をよく観察し、理解し、見えない部分を想像してみる。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	模写する絵画の対象を教師がまず研究し、創作の背景から園児に説明できるようにする。	B	教師と園児が共によく観察し、何が描かれているか面白さがどこにあるか話し合いながら観察眼を養っていくことができた。
2	制作にかかわる幼児の様子に気を配ると同時に周囲との関係にも目を配る	A	各児により集中力に差があるので、一定の時間を設けずに個々の園児にかける一回の時間にあえて差を設けて、少しずつ焦らずに制作を進めた。他児がどう描いているか、お互いのものを見ることも大事な点とした。
3	クラスに関係なく、その場にいる教員が園児の行動や問い掛けるに対し適切な対応を取るようにする。	B	制作物を一つの共通の場として、そこへ各自の持てる力を集めていくことを第一に考えた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	今回の模写合同制作は、皇居三の丸尚蔵館・新館オープン記念展覧会に合わせた教育プログラムとして、そこへ展示される伊藤若冲の展示4点を、模写した上、同展覧会を見学に訪れるというこれまでにない試みであった。同館学芸員の方の助言、絵画展へのエクササイズプログラムと合わせて意義深い試みだった。少しずつ時間をかけながら大作が出来上がっていく喜びを味わえたと思う。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	児童文化の歴史再発見	過去から蓄積された童話集、紙芝居、歌を再度調べ、「発掘」する。また創立当時の「口演童話」の手法を再び活性化させる。
2	幼児理解	一斉活動にすぐに溶け込めない、または全く興味を示さない幼児への働きかけと同時に、一人行動の意味をよく理解する。
3	自然観察	園庭の自然に限っても、虫の生態や植物の生育には不思議な現象ことが多いことを保育者自身が学んでいく。

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

今年度の重点課題は、外部の、美術館という施設の教育プログラムという連携により、より広い教育的視野が生まれた。今後もこうした外部との連携機会をすこしでも多く設けて、園内にとどまらない活動の範囲を広げていってほしい。